

SSMの使い方

担当:岩井

## 目次

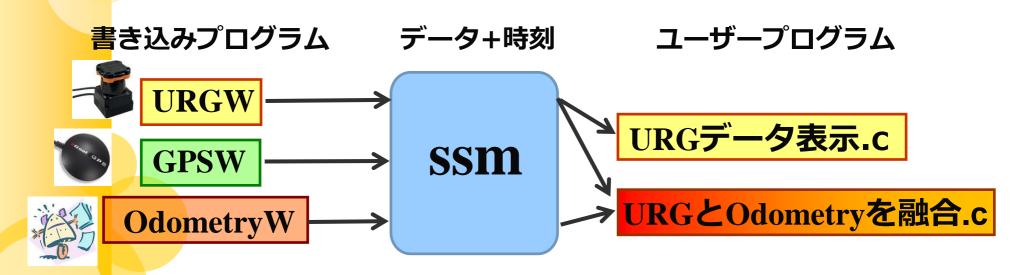
- 1.SSMとは
- 2.SSMのインストール
- 3.SSMを使う
- 4.ログを取る
- 5.ログを再生する
- 6.SSMwriteを作る上での注意点

# 1. SSMとは

## SSMとは

Sensor Sharing Manager の略

センサデータを複数のプロセスで扱いやすくするための プログラム



<mark>他</mark>の機能を考慮しなくてよくなるため容易にかつ 修正しやすいプログラムを作成出来る

### SSMとは

# 特徴

構成がシンプル(write側、read側)

各センサにつき1入力n出力が可能

時間指定でのアクセスが可能

センサデータのログが取れる

## 制約

途 中でデータサイズを変えられない

read側はデータ型を予め知っておく必要有

ログデータ再生時、一時停止・巻き戻しは出来ない

ssm-advance-player により可能に!

# 2. SSMのインストール

# SSMのインストール

- ① wikiからssm-0.8.0.tar.bz2をダウンロード(Wiki Topページ→SSM)
- ② tar xjvf ssm-0.8.0.tar.bz2
- (3) cd ssm-0.8.0
- 4 ./configure
- (5) make
- 6 sudo make install
- 7 sudo ld config

ssm-coordinatorと入力してインストールされているか確認

# iwai@LT10-T04: ~ ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 端末(I) ヘルプ(H) iwai@LT10-T04:~\$ ssm-coordinator SSM ( Streaming data Sharing Manager ) Ver. 0.8.0

←このような画面になればOK

※gcc、gpp、g++をインストールしておく必要有

Message queue ready. Msg queue ID = 0

# 3. SSMを使う

ssmにはデータ書き込み側(write)と読み込み側(read)が必要まずは読み書き用のヘッダファイルを生成

```
SensorA.h:ssmで扱う構造体を定義 ──
typedef struct {
   int a;
}SensorA;
```

今回は整数をssmにひたすら送るプログラムを作るので 構造体にはint型の変数を

```
送りたいデータに応じて構造体の中身は変える
char moji[256];
double distance[100];
など
```

### Write側の作成

int2ssmW.c:ssmに数値を1秒ごとに書きこむプログラム

```
#include <stdio.h>
#include <ssm.h>
#include "SensorA.h"//読み書き用のヘッダファイル
int main(void) {
 SensorA data:
 double measured time;
 SSM sid ssm sid:
 //ssmの初期化
 initSSM():
 //名前をsensor_Aで、IDを0で、1秒おきに来るデータを3秒間保持するよう領域を確保ssm_sid=createSSM_time("Sensor_A",0,sizeof(SensorA),3,1);
  //初期値をSSMに書き込む
 data.a=0:
 writeSSM(ssm_sid, (char*) &data, gettimeSSM());
  //一秒ごとにデータを書き込み
 while (1)
   data.a++;
   printf("%d\n", data.a);
   //SSMへのデータの書き込み。
   writeSSM(ssm_sid, (char*) &data, gettimeSSM());
   //一秒止める。ssmを使用するプログラムでは、sleepSSM(), usleepSSM()を使用することを推奨sleepSSM(1);
                                                 ※コンパイル時には「-lssm」を付ける
  return 0:
                                                 $ gcc -o int2ssmW int2ssmW.c -lssm
```

### Read側の作成

int2ssmR.c:int2ssmWで書き込まれたデータを読み込むプログラム

```
#include <stdio.h>
#include <ssm.h>
#include "SensorA.h"
int main(void) {
  int tid:
  SensorA data; //sensor_Aのデータ取得用
  SSM sid ssm sid; //sensor Aのアクセス用
  double measured time; //sensor Aの計測時刻取得用
  //初期化
  initSSM():
  //sensor_Aのオープン
  ssm sid = openSSM("Sensor A", 0, 0);
  //最新のデータのTIDを取得する
  tid=readSSM(ssm_sid,(char*)&data,&measured_time,-1);
  //1秒ごとにデータを取得
  while (1)
    tid++:
    //<mark>最新のデータの読み込み 新しい入力がないなら0.5秒待つ</mark>while(readSSM(ssm_sid, (char*) &data, &measured_time, tid)<0) sleepSSM(0.5);
    printf("%d\n", data.a);
    sleepSSM(1);
  return 0:
```

# SSMを使う SSMで用いる関数

たくさんあります

- ·initSSM()···SSMを利用するために必要な設定を初期化
- •createSSM\_time(センサ名,ID,データサイズ、データ保持時間、記録する周期)•••新しいセンサを共有メモリ空間に登録
- <mark>・g</mark>ettimeSSM()・・・現在時刻を取得
- ・writeSSM(SID、書き込むデータのアドレス、計測時刻)・・・センサデータの書き込み
- ・sleepSSM(時間)・・・指定された時間[s]だけプログラムを止める。ログを再生するときにデータが飛ばない
- ・usleepSSM(時間)・・・指定された時間[ms]だけプログラムを止める
- •openSSM(センサ名、ID、0)・・・登録された共有メモリ上のセンサデータにアクセス
- ・readSSM(<mark>SID、読み込むデータのアドレス、計測時刻を記録する変数のアドレス、時刻ID(-1で最新のもの</mark>))・・・・<mark>セ</mark>ンサデータの読み出し

SID: データへのアクセスに必要なもの。SSM\_sid型

深く考えすぎない

ssm.h

typedef char \*SSM\_sid;

/\* SIDは実はただのアドレス \*/

typedef int SSM\_tid;

/\* TimeID型\*/

/\* ---- function prototypes ---- \*/

SSMで用いる関数 最初は難しく感じますが

writeSSMでデータの書き込み

openSSMで利用するセンサを開く

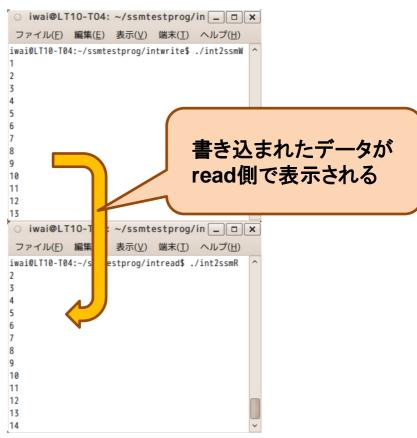
readSSMでデータの読み込み

上の流れだけ覚えておけば使えるようになると思います

#### プログラムを実行してみる

コンソールを3つ開き、下記のプログラムを順次起動する





Write側に書き込まれたデータがRead側で次々読み込まれていることが確認出来ればOK

# SSMをさらに使う

addR.c:int2ssmWで書き込まれたデータを足していくプログラム

```
#include <stdio.h>
                                                                     ソースコードはwikiにあります
#include <stdlib.h>
#include <ssm.h>
#include "SensorA.h"
int main(void) {
 int tid, sum=0;
 SensorA data; //sensor_Aのデータ取得用
 SSM sid ssm sid; //sensor Aのアクセス用
 double measured time; //sensor Aの計測時刻取得用
 //<mark>初期化</mark>
initSSM();
 //sensor_Aのオープン
  ssm sid = openSSM("Sensor A", 0, 0);
  //最新のデータのTIDを取得する
 tid=readSSM(ssm sid, (char*)&data, &measured time, -1);
  //1秒おきにデータを取得
 while (1) {
   tid++:
   //最新のデータの読み込み 新しい入力がないなら0.5秒待つ
   while (readSSM(ssm sid, (char*) &data, &measured time, tid) < 0) sleepSSM(0.5);
    sum += data.a;
   printf("%d\n", sum);
    sleepSSM(1);
 return 0:
```

# SSMをさらに使う

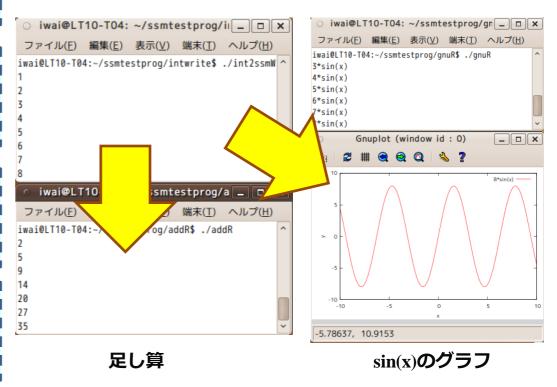
gnuR.c:int2ssmWの値×sin(x)のグラフを出力するプログラム

```
#include <stdio.h>
                                                                                          ソースコードはwikiにあります
#include <stdlib.h>
#include <ssm.h>
#include "SensorA.h"
#define GNUPLOT PATH "/usr/bin/qnuplot"
int main(void) {
  int tid:
  SensorA data; //sensor_Aのデータ取得用
  SSM_sid ssm_sid; //sensor_Aのアクセス用
  double measured time; //sensor Aの計測時刻取得用
  FILE *qp=popen(\overline{G}NUPLOT PATH, "w");
  //初期化
  initSSM();
  if (qp==NULL) {
    fprintf(stderr, "error %s", GNUPLOT PATH);
    exit(1):
  //sensor Aのオープン
  ssm sid = openSSM("Sensor A", 0, 0);
  //最新のデータのTIDを取得する
  tid=readSSM(ssm_sid, (char*)&data, &measured_time, -1);
  //gnuplotへの表示準備
  fprintf(gp, "set mouse\n");
fprintf(gp, "set xlabel \"x\"\n");
fprintf(gp, "set ylabel \"y\"\n");
fprintf(gp, "set xrange [-10:10]\n");
fprintf(gp, "set yrange [-10:10]\n");
  while(1)
       tid++;
       //最新のデータの読み込み 新しい入力がないなら0.5秒待つ
       while (readSSM(ssm_sid, (char*) &data, &measured_time, tid) < 0) sleepSSM(0.5);
       fprintf(gp, "plot"%d*sin(x)\n",data.a);
       fflush(gp);
       printf("%d*sin(x)\n",data.a);
       sleepSSM(1);
  return 0:
```

# SSMをさらに使う

#### 他のプログラムを実行してみる

\$ ssm-coordinator \$ cd int2ssmWが存在する場所 \$./int2ssmW \$ cd addRが存在する場所 \$./addR \$ cd gnuRが存在する場所 \$./gnuR



write側を変えることなく様々なプログラムを実行することが可能

# 4. ログを取る

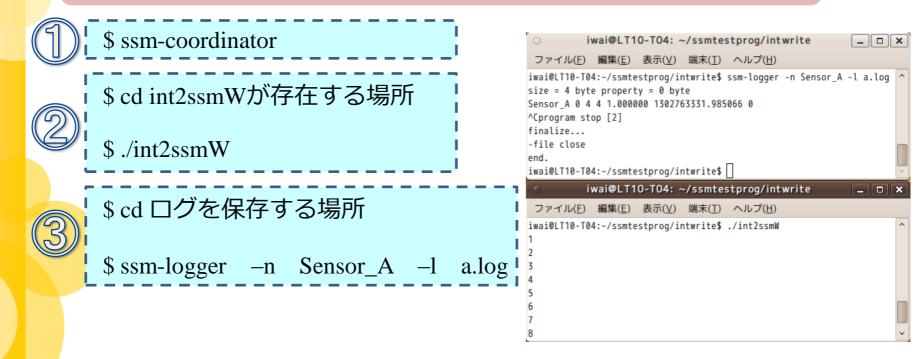
# ログを取る

#### 書き込まれたデータのログを取る

ssmに書き込まれた順番に沿ってデータのログを取得

#### ログの取り方

\$ssm-logger -n 記録したいデータ名(-i センサのID) -1 ログファイル名



適当なログが取れたらCtrl+cでログを停止

#### つくチャレで活躍

# ログを取る

#### 複数センサのログを取る

#### ターミナルを複数起動するか**シェルスクリプト**を使う

#### logger.sh

最後の行には &を付けないように

#### 起動するときは

<mark>./lo</mark>gger.sh ディレクトリ名

#### ファイル( $\underline{F}$ ) 編集( $\underline{E}$ ) 表示( $\underline{V}$ ) 端末( $\underline{T}$ ) ヘルプ( $\underline{H}$ )

```
iwai@LT10-T04:~/ssmtestprog$ ./logger.sh log
size = 4 byte property = 0 byte
Sensor_A 0 4 4 1.000000 1303816599.167558 0
size = 4 byte property = 0 byte
```

「log」ディレクトリに各種センサデータが 保存される

既に同名ディレクトリがあると怒られます

# 5. ログを再生する

# ログを再生する

取ったログを再生してみる



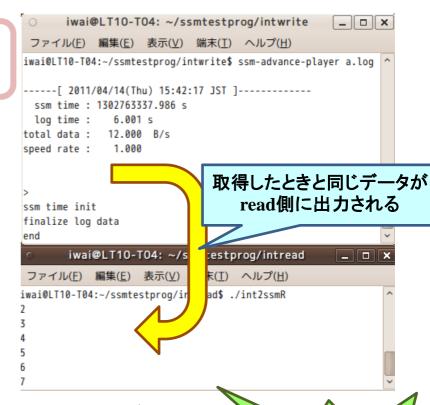
\$ ssm-advance-player ログファイル名

\$ cd ログを保存した場所

\$ ssm-advance-player a.log

\$ cd int2ssmRが存在する場所

\$./int2ssmR



同じデータで何度でもプログラムを試すことが出来る

同じ実験を繰り返す必要なし!

# ログを再生する

### 再生時のコマンド

再生しているターミナルで以下のコマンドを打つことで一時停止などが可能に

x 数値:再生速度を変更

+ : 再生速度1.1倍(++++\nなど連続入力可)

**-** : 再生速度0.9倍(連続入力可)

p : 一時停止

**S** : ログ再生

『 巻き戻し ←※readSSM\_time()が使われていると失敗するとの記述有り

**q** :終了

取得したいデータの所だけを再生することが可能!

# 6. SSMwriteを作る上 での注意点

# SSMwriteを作る上での注意点

ssmに書き込むときの時間はデータを取得したときの時間にする

```
while(1){
    GetData(&data);
    sleep(1); 
    writeSSM(data_A,(char*)&data,gettimeSSM());
}
```

この時間だけデータ取得時刻と書き込み時刻がズレる

sleep以外でもprintfなどの描画関数、時間のかかる計算が挿入されていると同じくズレます

# 対処法

データを取った時の時間を記録し、write時にそれを用いる

```
while(1){
    time=gettimeSSM();
    GetData(&data);
    sleep(1);
    writeSSM(data_A,(char*)&data, time);
}
```

これでほぼ正確にデータを取得した時刻でssmに書くことが可能

# 課題

①int2ssmWの数字を受け取って5の倍数ならばOK、そうでない場合は NGを送るfive2ssmWの作成

②five2ssmWから送られた情報からターミナルにOKかNGを出力する five2ssmRの作成

